

# プロジェクト①

海外からの来訪者等に多様なサービスを提供する  
ための意思・情報伝達サポートの実現

---

平成26年11月13日

# コンセプトと具体的な取組内容

- ・ 本PJでは、主に海外からの来訪者が、初めて訪れる場所・店舗等で、言葉の違い等によるストレスを感じずに各種のサービスを利用し、快適に滞在できるようにすることを目的として、スマートフォン等の情報機器上で動作するアプリケーション等で音声翻訳システムや歩行者誘導案内システム等を実用化し、オリンピック・パラリンピック大会及びその周辺地域における活用を推進していく。
- ・ 具体的には、来訪者が、オリンピック・パラリンピック関連施設・主要駅・各種交通機関・観光地等での誘導案内や、店舗・病院等の母国語での利用、災害時における適切な医療機関の紹介をはじめとする情報提供等のサービスが、都内のWi-Fiの接続環境等の通信インフラを通じて、支障なく受けられるようになることを目指す。また、活用シーンに合わせ高齢者や障害者にとっても利便性・操作性の高いアプリケーションの実導入を目指すとともに、ロボット開発の状況を見極めながら、オリンピック・パラリンピック東京大会等で会場案内や情報提供を行うロボットへのシステムの導入も検討する。
- ・ そのために、①多言語音声翻訳システムの研究開発、②電子地図等の空間情報インフラの整備の促進、③顧客の購入品・移動履歴等からサービス向上に資するデータを地域で共有できるプラットフォームの整備等を東京都等との協力により進める。その後、実証実験によるサービス提供の問題点を確認し、2020年に大会及びその周辺地域で広く活用できるようにしていく。



# 主な研究開発項目

## ① 多言語音声翻訳システムの研究開発

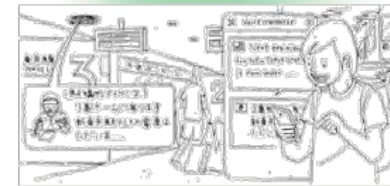
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に多数の外国人が来日されることを踏まえ、表示・標識等の多言語対応の強化・推進、多言語音声翻訳システムの高度化と社会実装の実現、外国人患者病院来院時の言語サポートツールの導入、多言語による医療情報提供サービス、英語対応救急隊の整備や救急現場におけるコミュニケーション支援ツールの配置など、官民が連携して多言語対応の取組みを推進する

### オリパラ時の社会実装イメージ

街中での案内(ボランティアなど)のサポート



病院での診療



駅構内アナウンスの自動翻訳

## ② 電子地図等の空間情報インフラの整備の促進

- 準天頂衛星や屋内測位技術を活用した高精度測位等により、外国人を含めて誰もがストレスを感じず、迷うことなく移動、活動でき、どこでも世界とつながるストレスフリー社会の構築を目指す。このため、日本の玄関口であり、ビジネスの中核である東京駅周辺において、実証的に電子地図等の空間情報インフラの整備を推進する

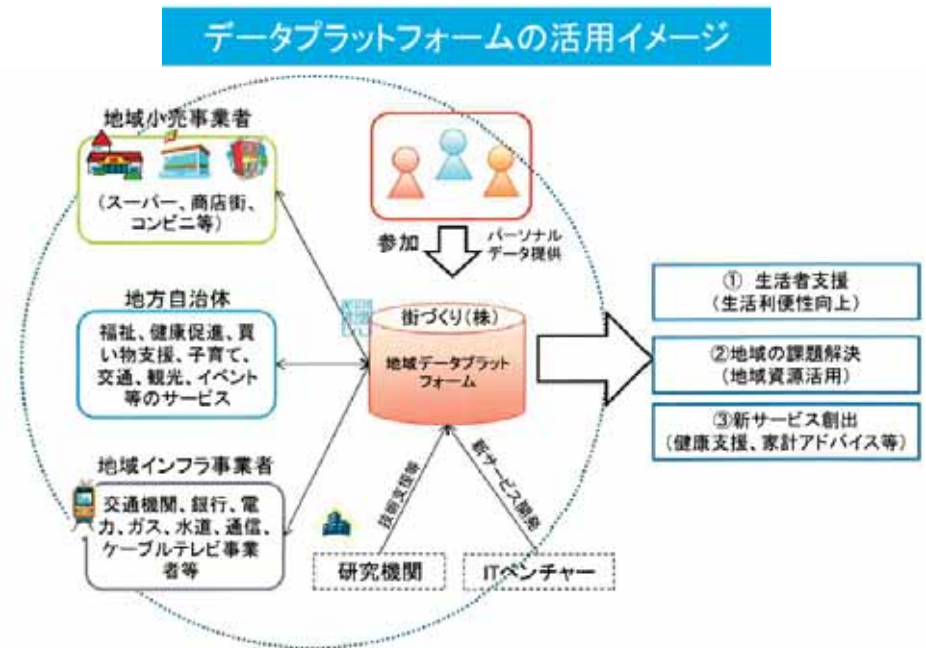
### 【オリパラ時に実現が見込まれるサービス例】



# 主な研究開発項目

## ③ 顧客の購入品・移動履歴等からサービス向上に資するデータを地域で共有できるプラットフォームの整備

- サービス産業の高付加価値化に向けたサービス工学の活用(データ活用、センサ技術、顧客接点支援技術等)



## ④ ロボットへのシステム導入

- ロボットの開発を推進し、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会等における活用を目指す

ロボットのイメージ(一例)



案内ロボット



着せ替えロボット  
(VECTOR株式会社との共同研究)



日野おもてなしロボット

# 当面の課題および今後の予定

WGにおいては、PJ内容の実現に向けて、個別施策毎に実施する研究開発・事業の内容をとりまとめ、今後実用化を実現するために必要な事項・法整備等の課題の洗い出しを行う。

また、オリンピック・パラリンピック東京大会での実用化をゴールとして設定し、本PJの工程表の作成を行うとともに、個々の機関が担う役割分担を年末までにとりまとめる。

さらに、オリンピック・パラリンピック東京大会時には、確実に実用化されていることを目指すため、研究開発及び事業の初期段階から実用化までの一連の過程において、関係機関が連携しながら、取り組みを継続する。

	10月	11月	12月	1月
PJ①		△ タスクフォース(第2回)		△ タスクフォース(第3回)
		△ 推進会議(第2回)	△ 推進会議(第3回)	
	報告 △ WG	報告 △ WG		必要に応じて開催 (△ WG)
	サブワーキングレベル等での検討 事業内容、東京都の連携施策の検討	△ WG		
	→	→	→	→
		工程表、役割分担等の作成		工程表等に従い、各研究開発の実施又は実施に向けた検討